

2025年度

慶應義塾大学入学試験問題

法 学 部

小 論 文

注 意

1. この問題冊子は、試験監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 受験番号と氏名は、解答用紙のそれぞれ指定された箇所に必ず記入すること。
3. 下書きの必要があるときは、この問題冊子のメモ用紙を利用すること。解答用紙の余白には何も書いてはいけない。
4. 字数指定については、句読点も字数に含めること。ただし、句読点が次の行の冒頭にくる場合は、前の行の最後のマスに文字と一っしょに書き入れてよい。
5. この問題冊子は問題・メモ用紙を含めて7頁ある。試験開始の合図があったら直ちに落丁、乱丁等の有無を確認し、不具合がある場合は試験監督者に申し出ること。

## メモ用紙

【問題】

法と正義に関して、ローマ法大全には次の学説が収録されている。

- ・「法とは善と衡平<sup>こうへい</sup>の術である。」(学説彙纂 第1巻 第1章 第1法文 前文)
- ・「正義とは、各人に各人の権利を分配しようとする恒常不変の意思である。法の掟とは以下のこと、すなわち、誠実に生きること、他人を害しないこと、各人に各人のものを分配すること、である。」(学説彙纂 第1巻 第1章 第10法文 前文)
- ・「たしかに過酷ではあるが、法律はそのように書かれている。」(学説彙纂 第40巻 第9章 第12法文 第1節)

以上を踏まえ、「法律の適用は正義の尊重と両立可能であるか」について、両立可能とする立場・両立不可能とする立場から、それぞれ（経験や体験ではなく）普遍的な例を論拠として示しつつ、800字以内で客観的に論じなさい。解答は解答用紙の所定の欄に書きなさい。

× 毛 用 紙

## メモ用紙

× 毛 用 紙

## メモ用紙

